

# 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

**【めざす学校像】 児童生徒・教職員の学び合いと「つながる笑顔」、「個を活かし合える多様性社会」に向けて期待と夢を育む「港」となる学校**

- 1 医療的ケアを含めた安全安心な校内体制構築
- 2 質の高い授業実践
- 3 互いの強みが発揮できる教職員
- 4 社会と繋がる力の醸成

## 2 中期的目標

### 1 安全安心を守る力の向上 ～ 児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校 ～

- (1) 学校生活のあらゆる場面で人権が尊重されるよう各人が「自分ごとでとらえる意識」・「組織の役割を果たす意識」「自身を律する意識」をもって、あたる。
- (2) 高度な医療的ケアを含めて卒業後を見通し、個別性に応じてスムーズに実施し、社会参加できる体制構築と環境整備を行う。
- (3) 事故・事案の未然防止に努めるとともに感染予防、食物アレルギー、大規模変災、情報セキュリティへの対応力向上を図る。

### 2 授業実践力の向上 ～ 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた質の高い授業実践ができる学校 ～

- (1) 児童生徒が達成感、自己有用感を育みながらより良く生きるための学びの在り方を常に自問し、授業改善に向けた研究・研修を充実するとともに、切磋琢磨の姿勢を向上していく。
- (2) 自立活動における専門性を徹底して向上するための学びのシステムを構築する。
- (3) 学ぶ筋道、内容が見渡せるシラバス、より深い学びにつながるルーブリック評価表、観点別評価、自立に向かう姿がわかりやすい交野マトリクスの活用を進める。
- (4) 電子黒板・タブレットや視線入力装置等の ICT 機器やアプリ、支援機器、リモートシステムの積極的活用により主体性を引き出す取り組みを推進していく。
- (5) 訪問教育の充実に向け、遠隔授業やスクーリングを一層充実していく。

### 3 協働する力の向上 ～ 教職員が学び合い、情報共有の上で多彩かつ柔軟な組織運営ができる学校 ～

- (1) 充実した OJT による次世代育成や継承スタイルをデザインし、信頼感と緊張感を持ちながら学び合うことを職場風土として醸成する。
- (2) 職場の DX 化を推進し、各部署で蓄積されたデータの合理的な情報共有・引継ぎシステムを作るために、合意形成から意思決定の流れや方法を改革する。
- (3) 教職員が心身ともに健康で、その使命感と誇り、やりがいを持ちながら児童生徒に向き合い、互いが持てる力を最大限発揮できるようパートナーシップに溢れた働きやすい職場環境づくりをしていく。\*新評価数値:偏差値 61(全学校の平均は 56)

### 4 社会と繋がる力の向上 ～ 児童生徒・教職員が自分らしさを発揮(キャリア発達)しつつ、使命感を醸成する学校 ～

- (1) 「居住地校交流」「地域学校間交流」「支援学校間交流」等の充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を行う。
- (2) 「地域に開かれた学校作り」実現のため、保護者・地域住民・関係機関との協働を進めながら、地域の支援教育力向上の使命を最大限に果たしていく。
- (3) 児童生徒・教職員が、その学びや想い、体験、実践を校内外に積極的に発信していく。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【回答率】教職員 100% 保護者 54% 児童生徒 28/110 名中 (任意.)  【肯定率 (A+B)】教:94.3% 保:86.4%  ◆肯定的評価 70 未満の診断項目…集計結果 0 件  ◆保護者「わからない」という回答が 25%以上の項目・・・集計結果 0 件</p> <p>【昨年度「わからない」が 25%を超えていた項目のポイントアップ要因】  1. 「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれると思う」保護者肯定率 80%(R7:73) 「わからない」20%(R7:27)  &lt;考察&gt;今年度は全国の学校で教員による性事案や生徒間の暴力行為が SNS 上に掲載・拡散される等人権侵害事案の報道が相次いだ。不安感が高まる社会情勢の中、保護者の肯定率は上がった。新たにアクションプラン「いじめ防止5か条」(e2efa92dcc1ef1584c8b6831c7d3b40e.pdf)を周知したことが、いじめ防止基本方針の具体策としてわかりやすく伝わったと考えられる。しかし、自由記述欄に「言葉で伝えられないから、一人一人の気持ちを汲み取りながら対応してほしい。」という願いも寄せられている。今後も、方針を広報しつつ、防止対策に引き続き丁寧に取り組んでいく。</p> <p>◆児童生徒「わからない」という回答が 25%以上の項目…集計結果 3 件  1. 「先生は進学・卒業してからのことを教えてくださいか。」39%  2. 「先生は社会のルールや命の大切さを教えてくださいか」32%  3. 「学校でタブレットやパソコンを使っていますか」29%  &lt;考察&gt;  1. 昨年度と比較すると「わからない」の回答は大きく減少。(15%減)「いいえ」の回答も減少。これまでの取り組みの成果は着実に表れてきていると考える。これらを継続しつつ、引き続き進路便り等で情報を提供する。また、進路懇談会等で保護者に「わからない」と回答した理由を尋ねる等も考えられる。  2. 保護者・教職員の肯定的評価は 90%以上で概ね高い評価であることを考えると、本校の児童生徒の実態から、学習のめあてや本アンケートの質問文の意味がわかりづらいことが要因と考えられる。次年度以降アンケート質問文をわかりやすく改善するとともに、児童生徒にとってわかりやすい授業を工夫する。また、本校ブログにおいて、道徳に関連した授業を掲載する際に、閲覧者にその目標が伝わるような記事作成に努める。  3. 教職員の ICT 機器活用意識が高まり [R7 肯定的評価 91 (7ポイント増)]、授業で活用する機会は増えている。また、連絡帳等で ICT 活用の様子をお伝えする機会も増え、保護者理解も高まってきている。[R7 保護者 ICT 活用項目肯定的評価 82 (5ポイント増)]。今後も ICT 機器活用の知見を高め、児童生徒一人ひとりに適した ICT 機器の活用により、児童生徒の自立を促すとともに「わかる」授業実践に取り組んでいくことが重要と考える。</p>	<p>第1回7月9日(火)  1)校内見学  2)実践報告教育活動の質的向上と支援機器の活用(学校経営推進費に挑む軌跡)  ・支援機器の導入目的:児童生徒の主体性を育むため、身体的・認知的支援  ・本校が推進する機器と活用実践報告 スパイダー / キャリーロコ / フレームランニング / コスモスイッチ / スイッチポット / 介助用リフト  3)経営計画 具体的取組みについて(主に安全・安心の向上に向けた取組み説明)  ■不審者対策の強化:校門の管理体制の見直し ■災害対応訓練:避難訓練の定期実施と非常持ち出し袋の整備 および運用 ■情報管理:保護者との情報共有体制の見直し、校務支援システム「賢者」による情報管理一元化を推進 ■教職員の働き方改革と専門性向上 ストレスチェック:業務効率化:専門性向上: ICT 活用研修  ■地域連携とキャリア教育の推進  ・地域連携・社会参加:交流および共同学習、外部イベントへの参加、外部講師連携を通じて社会参加を促進 ・企業連携:民間や福祉事業所での職場体験の実施  【委員より】  ・フレームランナーは初めて知った。介助者なしで動けることは大変良いことである。機器を導入後活動量等がどう変化したかの数値化は難しいが工夫が必要。これらの実践は推進すればするほど移乗時に教員の腰痛が課題となる。対策が必要である。  ・卒業後、福祉サービス事業所へこれまでの教育実践を正確に伝えられるように準備しておくことは重要。「個別支援計画」策定にあたり、本事業所では企業のツールを活用している。  ・本校では、e-Learning を導入個別の活用度を可視化。生徒の意欲向上効果あり。  ・今後は音楽交流の他、スポーツを通じた交流も考えられる。</p> <p>第2回12月12日(金)  1)学校教育自己診断実施結果報告  ・進路指導に関する質問について:保護者の肯定的評価が上がれば、児童生徒のそれも上がると思われる。数値の上下よりも「あてはまらない」や「わからない」の項目を丁寧に分析してほしい。進路については、児童生徒の「自己決定支援」できる力の育成も重要。  ・アンケート回収率:保護者回答率が上がらない課題については、保護者にたずねてみてはいかがか。案内を今後も引き続き工夫して取り組んでほしい。  ・児童生徒の自由記述に「ありがとう」があふれていることが素敵だ。日々子どもに寄り添って教育活動が行われている効果が表れている。自信をもって今後も取り組んでいただければよいと思う。  ・アンケート実施から分析・改善への一連の取組みが大変丁寧に行われている。</p> <p>第3回2月5日(木)開催  ・学校教育自己診断:肯定率が非常に高いにもかかわらず、担当組織で丁寧に分析され、チームで学校経営の改善にあたっておられる点が素晴らしい。ただ、保護者の未回答者が半数では、分析の精度も下がる。回答率アップに引き続き取り組んで欲しい。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
<p>1 安全安心を守る力の向上</p>	<p>(1) 人権尊重にねざした個人情報の適正な管理</p>	<p>ア 情報管理規定に基づき、実情に応じたルールをわかりやすく、周知徹底する。</p> <p>イ 「個別の教育支援計画」賢者システム移行を機とした、保護者・担任・保健室の情報管理運用見直し</p>	<p>ア NW 更新に伴う、新たなシステムの共有、端末の持ち出し、校外利用の際のルールを周知・遵守し、個人情報の紛失・流出事故ゼロを徹底。 [0回]</p> <p>イ 保護者による記載内容確認方法、保健室と担任の最新情報共有、進学・卒業にむけての引継ぎに係る個人情報の適正な運用管理について見直す。</p>	<p><b>ア◆個人情報の漏洩・紛失・流出事故状況</b> ・NW 更新により導入された学校共有ファイルストレージの使い分け・策定した校内運用ルールを、周知。情報管理規程集の「教育委員会情報セキュリティポリシー実施手順の運用」および画像・動画の取り扱いルールについて見直せた。 ・個人情報配付文書誤配付と誤廃棄インシデント。 2件(△)</p> <p><b>イ◆「個別の教育支援計画」運用仕組みづくり改定状況</b> 賢者システムへの移行に向けて分掌部横断型の PT 創設。4月より検討開始。記載内容の確認の為保護者持ち帰り可に運用変更(支援部)、保健医療情報の適時更新ルールの確認(保健部)等、新システム内の運用管理所管部署を再確認。個人情報の運用管理計画が一定できた。(○) 【次年度に向けて】「個別の教育支援計画」を含む、配付文書の管理徹底。</p>
	<p>(2) 心身の健康を守る教育の推進</p>	<p>ア 医療的ケアについて、これまで培ってきた看護師体制を維持し、教職員と緊密な連携をとりながら機動的迅速かつスムーズにケアが実施できる体制整備を進める。</p> <p>イ 食物アレルギーを含め、災害時の個別の対応表を充実させる。予備薬持参者用の服薬対応様式及び課業時間外の注入対応様式を周知し、担任が整理・活用する運用を定着させる。</p>	<p>ア 医療的ケアで、授業・行事が滞ることなく実施でき、児童生徒の学習保障、保護者負担軽減を図る。</p> <p>イ 災害時(宿泊学習時)の個別の対応表について、保護者や放課後等デイサービス、進路先の事業所とも共有できるようにするため、「個別の教育支援計画」に組みこむ方向で検討。</p>	<p><b>ア ◆安全体制状況</b> 計画的な看護師配備体制で、教育活動が保障された。また長期入院明け等で懸念がある場合は、医療的ケア児に関わらず、養護教諭等が主治医訪問を行い、活動上の配慮点や体調管理に関する助言を得よう努めた。 <b>◆具体的な保護者負担軽減策</b> 年度当初の保護者付き添い期間短縮に向けて、その期間の提示時期を従来の2月から12月へ前倒した。これにより、保護者は主治医への相談や通学方法等を早期から計画ができ、保護者負担の軽減につながった。(◎) 【次年度にむけて】この流れを定着させるよう、医ケア手引書等の随時見直しを行い、更なる軽減を図りたい。</p> <p><b>イ◆「保健・医療」情報の「教育支援計画」への反映</b> 旧「個別の教育支援計画」記載内容が「賢者」様式に記載できない課題については、「対応表」に盛り込み、それを卒業時に提供する「移行支援バック」として、関係機関に確実に引き継げるようにした。個別の医ケア対応表については、教職員間で年二回情報の更新確認し最新の情報であることを担任と保健室で確認していく。(○) 【次年度に向けて】放デイなどへの在学中の提供運用。</p>
<p>(3) 危機管理体制の強化</p>	<p>ア 断水・電源喪失に備えた医ケア児を守る備蓄品を充実させ、防災備品室運用の周知徹底。体育館を避難会場とする運営訓練を引き続き実施。保護者による備蓄品確認や引き渡し訓練等を通じて PTA の防災意識を高める。</p> <p>イ 不審者対応訓練や、敷地内出入り口の総点検により、実効性のある危機管理マニュアルに更新する。</p>	<p>ア-1 食物アレルギーのある児童生徒に対応した備蓄食の在り方を見直す。</p> <p>ア-2 引き渡し訓練において「個人避難袋」を活用できるか検証。</p> <p>イ 全ての出入り口の防犯措置を更に高める</p>	<p><b>ア-1◆アレルギー対応の備蓄食整備状況</b> 備蓄の段階食はアレルギーへの配慮がなされていなかった現状を踏まえ、アレルギー特定原材料等 28 品目を含まないものに速やかに変更した。3日分備蓄完了。(◎)</p> <p><b>ア-2◆非常持ち出し袋「個人避難袋」の活用について</b> 訓練で持ち出し実施。児童生徒避難後、大容量の多量の個人避難袋を再度教室に向かい、少人数で搬出する困難さが明らかになった。冷蔵保管中の予備薬については、児童生徒の避難と同時に持ち出せるよう、全学年に同規格の小型保冷箱を購入。速やかに更新できた。(◎) 【次年度に向けて】個人避難袋：教室保管⇒2次避難場所からアクセスできる別場所へ。袋内の食品は、保管場所の断熱化検討も必要。 ・ポータブル電源等非常時以外の使用頻度を高める。 ・保護者・教職員の防災意識の更なる醸成。</p> <p><b>イ ◆出入り口の整備について</b> 4月上旬に警察と訓練実施。全ての出入り口を確認。正門が開けっ放しと指摘受けた。正門侵入想定訓練実施。(△) 【次年度に向けて】 イ：正門の防犯強化⇒内扉設置で予算要求準備中。 受付 BOX と事務室の連絡体制 各出入り口門扉の定期点検(開錠確認等)</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 授業実践力の向上</p>	<p>(1) 質の高い授業実践</p>	<p>ア 「個別の教育支援計画」の様式・運用を改定し、保健室を含めた蓄積データの合理的な情報共有・引継ぎシステムを再構築し、本人の長期的なニーズをふまえたPDCAサイクルに則り策定する。</p> <p>イ-1 ルーブリック評価表やシラバスの活用により、日々の児童生徒の学習の様子を3観点別に記録するなどの工夫を加え、個別の指導計画のPDCAサイクル(計画立案→実践→評価→改善)によるよりよい授業づくり、チームで指導改善を図る。</p>	<p>ア-1 R8年度:賢者システム移行をめざし、現行の「個別の教育支援計画」を、改定、医療・保健・福祉・労働・教育の関係機関の協働支援によるツールとして充実させる。</p> <p>ア-2 R8年度:賢者システム移行をめざし、「シラバス」「個別の指導計画」「三観点評価」「指導要録(様式2)」の関連性・連続性を全学部で整理。</p> <p>イ-1 「個別の指導計画」の目標設定・評価について、各学部の実情に応じた研修や授業担当者打合せなどを年間通じて計画的に実施。 * 自己診断2〔90%〕維持。</p>	<p>◆「賢者システム」への移行進捗状況 ア-1「個別の教育支援計画」 新様式への情報の落とし込み先や記入例を盛り込んだマニュアルを作成し、移行作業を7/20開始。新規「合理的配慮を含む支援」シート記入のための研修会を2月に実施。年度内に旧担任で記入する体制も完了。 7月の懇談時に専用のホルダー(オレンジファイル)にて保護者が新様式持ち帰る運用に全学部変更。 *4月当初に全保護者周知予定。もってR8年度より全学年でシステム運用開始準備完了。(◎)</p> <p>ア-2「個別の指導計画」 小中高等部でPT会議を適宜行い、検討・調整をおこなった。これまで、学部ごとに様式の書きぶりや運用が異なっていた点があったが、賢者導入を機に、校内統一。そのマニュアル、賢者システムでの業務進行一覧も2月に周知。全校で次年度4月運用開始。(◎)</p> <p>イ-1◆よりよい個別の指導計画に基づく授業づくりに関する研修や、PDCAサイクルによる打ち合わせ状況 小):各学年でルーブリック表を活用し、目標や手立て、児童の変化を話し合い、学部で活用した取組みを共有。 中):事例研として、「生徒の実態報告(5月第1学年)」「ADLや自立活動授業での取組み(12.1月第2・3学年)」を発表、実態把握～評価へ繋がる情報共有の場を設けた。 高):「自立活動の個別の指導計画学習会」開催(7月) 次年度も「個別の検討時間」の運用整備。〔97%〕(◎)</p>
	<p>イ-2 異なる学年で、同教科担当者同士が、年間指導計画と評価を共有し、学びの順序性やバランスの確認、教材の情報交換などできる体制を構築。</p> <p>ウ 4年めの「小グループ型研究授業」実施。6～7名のグループ編成で、授業者と支援者に役割分担の上、授業見学、協議を行う授業者支援会議システムの充実を図る。</p> <p>エ 支援学校 10 年経験者の授業実践力向上にむけて、府内支援学校の公開授業参観や校内研究授業公開を実施。</p>	<p>イ-2 シラバス活用による教科(指導者及び担当者)打合せ会の実施(最低年3回)により、学習指導要領に基づいた学びの連続性を確認</p> <p>ウ 振り返り会後に、主担者が当該学年や同授業グループ教員全員と授業改善案を共有できるシステムやワークシートの検討。</p> <p>エ 同類型・教科の主担者同士が学部学年を越えて交流できる機会を自身で作成、実践。</p>	<p>イ-2◆教科打ち合わせ会実施状況 小学部:学年の担当で、下校後随時実施。 中学部:教科担当者会3回、授業担当者会7回実施。 高等部:授業会議5回、教科会2回実施。(◎) 【次年度に向けて】学部を越えた教科研の充実</p> <p>ウ◆研究授業の在り方、協議会開催成果について 指導案様式に知識・技能に関するルーブリック評価表を記入する欄を追加。研究協議後、副担当教員間にもその記録を回覧、当該授業改善の意見を共有した。アンケートは、肯定的意見:86%(昨年度96%)。(○) 【次年度に向けて】小グループ編成員を担当教科ごとに変更する等、協議を深める手立てや研究テーマを検討。</p> <p>エ◆ミドルリーダー世代(経験者同士)の切磋琢磨 実施できなかった。(△) 【次年度に向けて】 ・管理職が計画的に授業見学・学校見学へ行ける仕組みづくり年度当初に示す必要あり。 ・ミドルリーダー世代の情報交換や受講の機会創設。 当事者のニーズを引き続き収集。</p>	
	<p>(2) 自立活動の充実</p>	<p>ア 摂食指導、運動姿勢・動作改善に加え、車いす簡易電動化ユニット、上肢機能補助装置、視線入力装置、重力軽減装置、プログラミング教材等の支援機器に関する知見を指導支援に活かし、その実践を全教員で共有できる仕組みを作る。</p> <p>イ 実態把握のためのアセスメントツールの導入により、教員の見立てが豊かになり、自立活動の個別の指導および授業の目標設定、及び手立ての充実につながるよう検討する。</p> <p>ウ「個別の教育支援計画」に交野マトリクスを活用できるか検討する。</p>	<p>ア-1 自立支援機器等の展示、紹介研修を夏季休業中に悉皆で実施。 アンケート満足度 80%</p> <p>ア-2 外部専門家等の指導助言を受けた実践事例を動画やレポートにし、校内で共有・次年度へ引き継ぐ仕組みを定着させる。</p> <p>イ R9年度よりのSスケール本格活用に向けて、有効な活用場面・時期について試行。(引き続き小3・小4、小6・中1、中3・高1の学年で実施)学部間で共有。</p> <p>ウ 賢者システム移行を機とし、本校独自のマトリクスが、長期目標設定や実態把握に関連付け活用できないか検討。</p>	<p>ア-1◆自立活動充実のための実践・機器の共有 情報教育部と自立活動部で共同機器展示会開催。(8月)分掌管理の教材貸し出し件数が増加。事後アンケート〔満足度 87%〕、今後導入したい物品や機器など(プログラミング教材など)のニーズも得た。(○) 【次年度にむけて】悉皆で2分掌部連携・続 研修企画。</p> <p>ア-2◆適切な外部専門家人材活用とその成果の共有 福祉人材派遣事業にて、OT4日 PT4日 ST3日來校。小)17名、中)10名、高)15名について巡回指導。それらの内容は全教員に配信。(年3回)。また、STによる巡回成果報告会開催 (○) 【次年度に向けて】臨床心理士巡回成果報告会計画。</p> <p>イ◆Sスケールの試行について実践の共有状況 Sスケールでのスコア付けは、3年間段階的に導入し、今年度をもって全児童生徒に対して実施済み。 実態を共有する際にスコア表を付記した指導略案活用・発達段階を確認しての目標設定等に活用。賢者システム開始に合わせ、新たに「目標設定シート」を考案 (◎) 【次年度にむけて】賢者導入にあわせ、自立活動部作成の「目標設定シート」の記入の妥当性(目標と実態の整合性、記入の意義)の検討を行い、様式の改定や活用方法の検討、事例の蓄積を実施する。</p> <p>ウ◆交野マトリクスの活用検討状況 4月の新転任兼研修にて紹介。事例研にて生徒のキャリア発達を交野マトリクスで確認して目標設定した実践を共有。 *今後、これらのデータを必要な時に取り出せる場所に格納周知。(○)</p>

	<p>(3) ICT 機器活用と オンライン教育 の充実</p>	<p>ア 電子黒板、タブレット活用と訪問教育を含めた遠隔授業等多様な学びの方法を探り、充実を図っていく。</p> <p>イ 肢体不自由校ならではの1人1台端末フル活用をめざし、個に応じた活用方法を充実させる。</p>	<p>ア 入院・訓練・訪問籍の児童生徒に対し、積極的に活用することで、昨年度以上に交流・経験を広げることができたか。</p> <p>イ スクラッチとコスモスイッチ連動、授業で有用なアプリの周知1人1台端末でのアシティブテクノロジー(視線入力)の試行など、主体的な動きが促せるICT機器を充実させそれらの授業実践を外にも紹介。</p>	<p>ア◆WEBを活用した遠隔授業等について                  学習支援クラウドサービス                  ・療育園・訪問籍の児童生徒等がHR や行事の合同練習等に参加。                  ・入院中・自宅療養等長期欠席生の様子を情報共有。                  ・新入生の発作や体調不良の様子を保護者と情報共有。                  ・他支援学校と交流。(◎)  <b>【次年度にむけて】</b>スポーツ大会(ポッチャ大会)に、スイッチボットを使用し療育園在籍生徒が遠隔で大会参加予定。</p> <p>イ◆個に応じたICT機器の充実と授業実践の共有・公開小):視線入力やスイッチの活用で自立活動授業時間以外の、給食・昼休み等でコミュニケーションをとる活動に習熟。教員対象に、15分のICTコンパクト研修を毎学期実施。「視線入力機器の組み立て方・操作方法」「ビジュアルプログラミング言語の活用」「生成 AI の有用性」「近距離無線通信技術を活用した授業実践」など。実施後はフォーム作成ツール活用によるアンケートを集約し、次回研修に活かした。                  ・全国肢体不自由研究協議会に参加。自立活動部と情報教育部が協働して「視線入力装置を活用した眼球運動の変化に着眼して-」をテーマにポスター発表。参加した成果を伝達講習として本校教員に共有。(◎)</p>
<p>3 協働する力の向上</p>	<p>(1) 教職員の組織的 専門性向上</p>	<p>ア 各人の同僚性の発揮に加え、初任者に対してチューター(2~4年め)とメンター(部主事等)制を導入し、学び直しや各々の成長を確認し合い、OJT の充実を図る。</p>	<p>ア各学部の初任育成定例会は継続。〔毎学期1回以上〕</p> <p>* ストレスチェック偏差値前年度と比べてリスク低減を図る。[61](全学校平均:56)</p> <p>* 総合健康リスク                  全国平均を100として                  R6[98]、R5[101]</p>	<p>ア◆当該学部の初任者等育成体制について                  小):初任者配置0人、勤務2~4年を対象に、年6回程度、メンティ、メンター制を導入。部会後に実施。                  中):チューター制年6回程度、メンター制毎月1回。双方の関係が深まる中、初任者研究授業検討も深まり、専門性向上に効果あり。                  高):初任者配置0人、新転任を対象に定例会(ラベンダー会)を学期に1回実施。  <b>【次年度にむけて】</b>全学部の2~4年めの教員を参集し、意見交流・発散の場をつくることも考えられる。                  * 前年度比較観点の変更(偏差値ではなく総合健康リスクで)計算式「量的負担-コントロール値」×「職場の支援値」/100 R7 [87] (○)</p>
	<p>(1) 教職員の組織的 専門性向上</p>	<p>イ Mapping Sheet(交野支援版専門性チェックシート)を、校内外研修等の受講計画や成果指標に活用し、自身の専門性向上に活用する。</p>	<p>イ 専門性チェックシートを活用して校内外研修の受講計画をする。自己申告。各分掌部等が年度当初より計画的に研修を企画、長期休業中の自主研修については、3講座以上の研修を選んで受講。</p>	<p>イ◆研修企画側:意図と計画性、企画の振り返り                  (統括:研究部)4月より:法定研修と別に校内新転任研修8件、初任研1件、肢体校初任研2件、医ケア初任研1件を実施。夏季休業:悉皆研修6件、任意研4件を案内。その周知は6月の職員会議で提示。夏季外部研修は都度メールと廊下掲示等で、周知。                  ・校内新転任者研修後はアンケート実施でニーズ調査。                  ・8月開催の近肢研大会は30名参加。その参加者が各分科会の内容をパネル手法で校内伝達発表(9月)筑波大附属桐ヶ丘特支援学校研修参加者も伝達。(2月末)                  (保健部)夏季休業中の悉皆研修について                  要望に応え、「服薬について」学校薬剤師を招聘し実施。概ね満足の声を得られた。次年度は、要望が多い「てんかん発作のメカニズムや服薬について」医師を招聘予定。                  (自立活動部)夏季休業中等の悉皆研修について                  「家庭での支援に関する具体的な実践」「発達支援に関する理論と実践」「実技を含む感覚統合的な支援」アンケート結果[満足度79%]実体験に基づく講話・実技指導が好評。次年度も、授業実践とのつながりを意識し、テーマを掘りさげる連続講座等も視野に企画予定。(◎)  <b>◆受講側自身の研修受講計画、学びの振り返りと伝達</b>                  ①校内研修後のアンケート実施率                  悉皆研修のうち、アンケート実施済は4つ。新転任研は、7つの研修すべて終了後に一括のアンケートを実施。                  ②長期休業中、校内外任意研修3講座以上受講率。                  教諭 30/78人 39% (△)  <b>【次年度に向けて】</b>                  ・新転任研修の各々でアンケートを実施する予定。また、夏季研修の案内は今年度と同様に早めに周知することで参加率の向上をめざす。多様な働き方でも受講できる工夫。                  ・職種に関係なく、自主研修の計画と参加を推進する。</p>

	<p>(2)                  教職員働き方改革推進</p>	<p>ア 教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合ために                  (i) 時間外在校時間縮減                  (ii) 休憩時間確保                  (iii) 校務効率化                  (iv) 心身健康状態、職場安全衛生環境の向上</p>	<p>ア                  (iii)                  ① 職種・勤務時間帯に関わらず必要な情報が速やかに共有できる利便性を拡充。                  ② Wi-Fi接続によるフレキシブルな会議運営、ペーパーレス化。</p> <p>(iv) 腰痛予防対策                  ストレス C ワースト偏差第1位「身体的負担偏差」低減。[28]</p>	<p>アiii                  ①◆電子掲示板・Web 会議システム等の利用、運用ルール確立                  ・NW 更新により導入された各種クラウドサービスの使い分け方針・校内運用ルールを周知。学校ポータルサイトの充実により、利便性が大きく高まった。 (◎)</p> <p>②Wi-Fi接続によるフレキシブルな会議運営など                  ・チャットツールの活用が進み、各種委員会、分掌部会、学部会、学年会、教科主催者会、授業担当者会、個別の検討時間等、ほぼ全ての会議や連絡において、ペーパーレスで資料の共有や意見反映、情報整理が円滑になった。                  ・フォーム作成ツール活用による集計により、ヒヤリハットの申告や集計作業の簡素化を図った結果、速やかに情報を一覧で可視化できるようになった。以上のように、新環境の NT システム導入により、業務の効率があがった。(◎)</p> <p>【次年度に向けて】                  ①デジタル上の一方的な情報提供で、完結せぬよう対面での協議や意見交換が必要な場合は精査しつつ維持必要。                  ②データをクラウド上に保管する習慣化と、年度切り替わり時のフォルダリネーム移行整理。                  ③適切なテレワーク活用推進。[R7:登録者 14 名]                  ④保護者の応答可能な「学習支援連絡網」の導入。</p> <p>(iv) 腰痛予防対策事業の成果                  職場ストレスチェック状況 ワースト偏差値第1位は「身体的負担」[28] 数値変わらず。(△)</p> <p>【次年度にむけて】                  PTA の支援と教育庁の支援を受けて導入している介助用リフト機の更なる活用により、児童生徒にも教員にも心身負担を軽減する。トイレのベッド改修。</p>
<p>4                  社会と繋がる力の向上</p>	<p>(1)                  交流及び共同学習の充実</p>	<p>ア 学校間交流、居住地校交流については、直接交流が難しい場合 DVD や web 会議システムなども活用をしながら、相互理解が深まるように取組み、積極的に HP 上で発信していく。</p>	<p>ア 各学部为学校間交流については、関係校と息の長い交流ができるよう、計画的に実施。                  ・計画と実践記録を学期に1回以上 HP 公開                  [小2中1高3件]</p> <p>[検討点]                  ・HP 掲載場所の整理                  ・高 関西創価との交流・介護体験                  ・小・中学部: 交野みらい学園との交流検討</p>	<p>ア-1◆居住地交流状況と広報について                  前年度から、希望を聞き取り、準備を開始した結果、1学期より交流を開始できた。                  小)11 名が希望、のべ 12 回実施。その他、転入生について前在籍の学校を3回訪問し交流。                  中)1年生1名5回実施。                  * 広報は HP「居住地交流の実績」について一覽掲載(○)</p> <p>ア-2◆学校間交流状況と広報について                  小)藤が尾小学校と: 事前に集めた質問に当日答える場を設けた。また、リコーダーと歌の出し物に添えツリーチャームでお礼の気持ちを発表する機会を設けた。相手校より本校の児童の実態を理解しようとする心が育まれたという、肯定的なお手紙をいただいた。                  中)関西創価中学校と: 来校されポッチャで交流(1月)                  ・訪問し、オーケストラ部と交流予定(3月)                  高)・1年: 枚方津田高とポッチャ交流(7月)・2年: 交野高の文化祭参加(9月)関西創価高とポッチャ交流・交野高と音楽交流(12月)光陽支援学校とのオンライン交流(2月)・3年: 関西創価高訪問交流                  * 広報については、1学期に1回以上ブログ記事と「交流及び共同学習」サイトに HP の更新をすることができた。</p> <p>3月 18 日時点                  &lt;小:1+プ2、中1+プ1件、高:5+プ2件&gt; (◎)</p> <p>【次年度に向けて】                  ・至近の交野市立学校園との交流復活を引き続き検討。</p>

<p>(2) 地域に開かれた 学校作り</p>	<p>ア 地域の住民の方々や、委託の通学バス職員、給食調理員、技能員などとの交流を企画し、お互いが活性化できる取組みをする。</p> <p>イ 北河内ブロックの推進校として、協働市をはじめブロック内の支援教育に関する各課題に合った取組みを円滑に進めることができるようにする。また、校内研修に地域学校園教員や関係機関職員を呼び込み、児童生徒の支援に関する連携を図る。</p>	<p>ア-1 校内関係職員や地域住民との交流授業を各学部1回以上実施し「Katano 便り」としてHPブログ記事等に発信。前年度以上。[5回/39件]</p> <p>ア-2 医療・保健・福祉・教育機関関係者の学校見学を積極的に受け入れ、教育活動の理解と連携の深化を図る。</p> <p>イ 北河内ブロックの推進校として、連絡調整を円滑に行う。ブロック会議で協働市の成果を報告する。研修参加者にアンケートを実施、成果を検証。</p>	<p><b>ア-1◆校内関係者との交流企画成果・広報</b> ・栄養教諭等が HR 教室で喫食したり、キャリア教育の視点で他学部・他学年の児童生徒同士が喫食したりして実施。食育授業については、「朝食の重要性」をテーマに、栄養教師と教職員が協働して実施。(各学部1回ずつ) HP で、上記取組みや給食を掲載。 <b>◆地域住民等との交流企画成果・広報</b> ・小)昔遊び:校区福祉委員等が来校指導。(1月) ・高)いかるが牛乳出前授業(9月) ・高)交野市福祉協議会「玉手箱」出前授業(10月) ・和太鼓演奏グループ蓮風を招聘。鑑賞演奏体験。(5月) ・センチュリー交響楽団アンサンブル招聘、演奏会(6月) ・出版社編集長招聘、紙芝居の読み聞かせ実施。(7月) 「Katano 便り」3月18日時点[5回/63件] (○) <b>【次年度に向けて】</b> ・地域交流を「音楽」「防災」を軸にできないか検討。 ・地域展覧会や演奏会での発表参加</p> <p><b>ア-2◆学校見学・実習・研修の受け入れ状況</b> <b>【教育】</b>保護者教員:学校見学会2回(①52人②58人) 教育実習2回(①4名②3人) 介護体験実習(34人) <b>【福祉】</b>枚方市内の事業所等を対象(55人) 個別に福祉事業所職員(5名) 移行支援:高3生の進路先の福祉事業所 自立活動の授業参観を実施(全事業所参加) <b>【医療】</b>関西医科大学看護部学生(100人) //リハ部学生(4人) (◎)</p> <p><b>イ ◆地域支援整備事業(北河内ブロック推進校)の成果</b> ・高等学校2校、私学2校の相談依頼があり、北河内のリーディングスタッフ(L.S)で分担して対応。また、3市が協働市としての取組みを実施。門真市は支援学級コンサルテーション訪問、枚方市はリーディングチーム(L.T)のスキルアップ、四條畷市は重点訪問。 ・公開研修に関しては、今年度は新たに同地区の高等学校へも広報したことで、参加者があった。 ・本校を会場に、枚方市介助員研修(◎)</p>
<p>(3) キャリア教育の充実</p>	<p>ア 教育課程上に進路学習の機会を位置づけ、早期から段階的に実施することで、自己実現や社会参加を促進する。</p> <p>イ 教員向け福祉事業所等連携関係機関の施設見学や研修受講を推奨し、校外との縁結び力:教員のキャリア教育指導力向上をねらう。</p> <p>ウ 展示、児童生徒会活動(児童生徒会役員選挙運動や公約を果たす活動含む)、図書活動(読み聞かせや読書ランキング)、放送活動など含めた表現活動を活性化。校外競技・コンクール参加・外部講師連携事業などの取組みも推奨。</p>	<p>ア 授業や行事でキャリア教育を計画的に継続して実践。(前年度より継続発展)</p> <p>イ 夏季休業中を中心に、R6年度卒業生利用の福祉事業所や、必要な場合は、居宅サービス利用時に家庭訪問。[35件]</p> <p>ウ 対外発表を含めて、児童生徒自身が発信、発表した取組みを *「Katano 便り」としてHPブログ記事等に発信。前年度以上。 [R6:0/39件]</p>	<p><b>ア◆企業との連携状況</b> ・ハンバーガーショップとの連携 小)(2年め)学部5・6年生で買い物学習実施。(10月)終了後教員アンケート 肯定的回答(10件/10件中)(3年め)学部で実施。(12月) 客はモニター表示されているメニュー等を、スイッチや発声等で注文。店員役は工程ごとに役割分担して勤務。</p> <p><b>◆福祉事業所等との連携</b> 高)①校内実習(2年め)前後期10日間。6名。生活介護 事業所より軽作業の仕事をお願い、実施。就労支援アドバイザーとして特例子会社の職員を招き、作業環境改善等について助言をいただいた。 ②1・2年進路学習 てらサポートセンター訪問 ③IIグループ進路学習 交野自立センター訪問 ④1年校外学習守口障がい者支援センターひだまり訪問</p> <p><b>◆四條畷分校とのキャリア教育を通じた交流</b> 高)(2年め)畷校の「就労準備コース」と「清掃接客コース」生徒が、本校にて「出張剪定・清掃」作業。今年度は樹木の名札づくりとその設置を「軽作業コース」も請け負う。本校「クリエイティブコース」生徒がお礼状作成、贈呈。(2月) <b>【学校教育自己診断項目4教員 [R7:91][R6:91] 5保護者 [R7:78][R6:89] (○)</b> <b>【次年度に向けて】</b>授業担当者が交替しても、小学部段階から取組み継続して続けられるよう、教育課程上の位置づけや年間行事予定表への入れ込みなど定着を図り、取組みを引き続き広報する。</p> <p><b>イ◆キャリア教育指導力向上の研修企画状況</b> 夏季休業中に教員対象の施設見学会を実施した。(15名参加、アンケート結果:回答数11件、肯定的回答11件) 夏季休業中に過去3年間の卒業生を対象にアフター訪問を行った。[33件]内訳:小学部1名 高等部17名 養護教諭1名 看護師1名の計20人 (○)</p> <p><b>ウ◆表現活動の実践、広報等の発信状況</b> 小)めざせルーヴル!第48回こども絵画コンクール 応募中)◎第4回あ〜と展覧会 2025 金賞1名 努力賞1名 ◎第44回肢体不自由児・者の美術展・デジタル写真展(絵画)優秀賞1名、書)部佳作賞1名、写真)銀賞1名 ◎医療者応援はがきプロジェクト 2025 奨励賞3名 ◎第8回オリT 甲子園 入選2名、佳作1名 高)第23回全日本年賀状大賞コンクール 応募 *各種アート展・図書室読書コンクール式日に校内で表彰 *「Katano 便り」としてHPブログ記事等に発信。 「Katano 便り」3月18日時点[5回/63件] (◎)</p>